

# 日本語・日本事情遠隔教育拠点報告 2023

波多野 博頭 伊藤 秀明 陳 祥 渡邊 芙裕美

## 要 旨

本稿では日本語・日本事情遠隔教育拠点の2022年秋から2023年夏までの主な活動について1)学習コンテンツの最新利用状況、2)既存コンテンツの拡充、3)新規コンテンツの開発、4)講演会およびシンポジウムの4つに整理して報告を行なう。コンテンツの利用状況ではTTBJの受験件数が集計開始以降初めて2万件を超え、特に団体受験で増加傾向にあることを報告する。また、「筑波ウェブコーパス」のページビューが初めて100万件を超えた一方で、利用が減少傾向にあるコンテンツもみられた。その他、既存コンテンツにおけるユーザーの利便性を考慮した様々な取り組みや、23年度中に新たに開発をはじめた3つのコンテンツ、および主催した連続講演会等について報告する。

【キーワード】 教育関係共同利用拠点 TTBJ 日本語教育のための学習コンテンツ

## Annual Report 2023 on the Center for Distance Learning of Japanese and Japanese Issues

HATANO Hiroaki, ITO Hideaki, CHEN Hsiang, WATANABE Fuyumi

**[Abstract]** This report summarizes the activities of the Center for Distance Learning of Japanese and Japanese Issues from Fall 2022 to Summer 2023. It is divided into the following four sections: 1) recent usage of learning contents, 2) improvement of existing contents, 3) development of new contents, and 4) lectures and symposia. In terms of the content usage, the number of TTBJ examinations exceeded 20,000 for the first time, with an increasing trend, especially for group examinations. The Tsukuba Web Corpus exceeded one million page views for the first time, although some other contents showed a downward trend in usage. It also reports on various approaches to improving the usability of existing contents, three newly developed contents, and an organized lecture series.

**[Keywords]** Education-related joint-use center, TTBJ, Learning contents for Japanese Language Education

## 1. はじめに

日本語・日本事情遠隔教育拠点（日日拠点）は、2010年から文部科学省による「教育関係共同利用拠点制度」の認定を受け、筑波大学のグローバルコミュニケーション教育センター（CEGLOC）内にて設置・運営されている。本制度によってCEGLOC日本語教育部門が持つ強みを活かすとともに、他大学との連携を進めることで、大学教育全体として多様で高度な教育を展開するというねらいがある。

日日拠点では、多様化する日本語教育や学生のニーズに応えつつ、様々な学習形態をサポートする学習コンテンツの開発・公開や、テクノロジーを活用する教育人材の養成等を行なっている。2010-2014年度を第一期、2015-2019年度を第二期、2020-2024年度を第三期とし、本報告では第三期のうち2022年秋－2023年夏の主な活動を報告する。

## 2. コンテンツの利用状況

日日拠点では、現在11種類の学習コンテンツおよびツールをウェブサイト上で公開している（表1）。そのうち、1~8はブラウザで動作するWebコンテンツとして、9~11はiOSとAndroidで動作するアプリケーションとして提供している（9. Nihongo123はWebコンテンツとしても提供）。ここでは、2018年度から2022年度までの5年間の利用状況について報告を行なう。

表1 日本語・日本事情遠隔教育拠点が提供しているコンテンツ

1.	つくば日本語テスト集 (TTBJ)	プレースメントテストと診断テストの機能があり、日本語の知識と運用力を測定する
2.	日本語学習者辞書	約23万の語彙を収録し、一部で音声読み上げや画像素材を利用したマルチメディア辞書
3.	場面・機能別日本語会話練習データベース	SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE (SFJ) に準拠した自主学習用映像教材
4.	筑波ウェブコーパス	日本語ウェブサイトから構築した約11億語の大規模コーパス
5.	リーディング・チュウ太	読解に役立つ各種ツール（辞書、レベル判定）と、教材教材を統合した学習支援サイト
6.	学習項目解析システム	入力テキストを解析して、学習項目の抽出とレベル判定を行う
7.	にほんごアベニュー	話者・場所・場面・働きで整理された発話・会話例が検索できる
8.	にほんごオーバーラッピング	ユーザーが自由に音声素材をセットして日本語韻律習得を支援する音声学習ツール
9.	Nihongo123	スマートフォンとPCで利用可能な、初級・中級レベルの日本語学習アプリ
10.	Basic Kanji Plus	BASIC/INTERMEDIATE KANJI BOOK Vol. 1&2 に準拠した漢字学習アプリ
11.	SuMo Japan	ユーザー同士が質問・回答を行なうことで、日本に住む外国人の生活を支援するアプリ

## 2.1 TTBJ (Tsukuba Test Battery of Japanese)

TTBJ の利用状況について、図 1 左図に受験件数の推移、右図に団体受験利用機関の内訳を示す。なお、2018 年度と 2019 年度は団体受験を休止していたため、個人受験のみの数値となっている。TTBJ は、SPOT90 や文法 90 など複数の日本語テストから成るテスト群であるが、図 1 はそれらの数値を合算したものである。

2018 年度から 2022 年度までの 5 年間で、TTBJ の受験件数は約 3 倍となっている（18 年度 6,627 件、22 年度 20,344 件）。本報告時点で最新の集計である 2022 年度では、受験総数が初めて 2 万件を超えた（個人受験 15,254 件、団体受験 5,090 件）。2021 年度の 16,559 件から約 123% の増加であり、増加は特に団体受験で顕著であった（個人受験 115%、団体受験 153%）。団体受験は 2020 年度から一貫して増加しており、全体の受験件数だけでなく利用機関自体も増加している（図 1 右図：20 年度 36 機関、21 年度 54 機関、22 年度 60 機関）。その内訳をみると、どの年度でも「私立大学」「民間・その他」「外国の研究機関（大学含む）」で全体の 90% を占めていることがわかる。

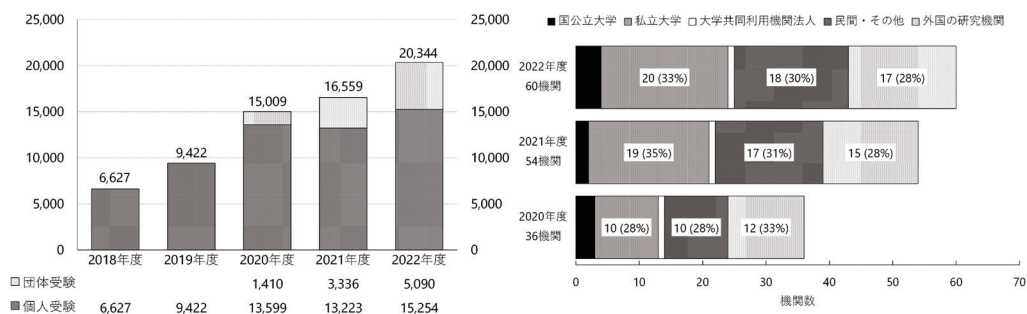


図 1 TTBJ 利用状況（左図：受験件数の推移、右図：団体受験利用機関の内訳）

TTBJ の大きな特徴の一つは、オンラインで簡単に日本語能力が測れるという点である。この特徴は、コロナ禍で遠隔教育を余儀なくされた状況では大いに歓迎された。実際、コロナ前の 2019 年度からコロナによるパンデミックとなった 2020 年度にかけて、受験件数は 159% も増加している（19 年度 9,422 件、20 年度 15,009 件）。これは、それまで教室で実施されていた何らかの日本語能力測定に代わるものとして TTBJ が注目されたことによると考えられる。そして、2020 年度からは主に団体受験での利用が増加傾向にある。その内訳としては主に、私立大学を主とした国内高等教育機関や民間の日本語学校・中等教育機関、海外の高等教育機関であった。これらの機関において TTBJ がある程度の組織的な用途、例えば学生のプレースメントとして利用されていることが推察される。さらに、多くの教育機関で授業がオンラインから対面へ段階的に回帰されつつ

あった2022年度においても引き続き利用されていることから、TTBJのオンライン性のみならず、その能力測定自体の妥当性や簡便さが広く認められ、上記用途での使用が継続されていることが示唆される。

## 2.2 Web コンテンツ

表1に掲げたWebコンテンツのうち、「日本語学習者辞書」「場面・機能別日本語会話練習データベース」「筑波ウェブコーパス」の利用状況として、年間の総ページビュー(PV)数の推移を図2に示す。

図2から、「日本語学習者辞書」は2021年度に続き2022年度も前年度からPV数が大きく減少している。その背景として、2021年度に日日拠点より提供開始となった「リーディング・チュウ太」の影響が考えられることは前報告でも述べた(波多野他2022)。なお、「リーディング・チュウ太」の利用状況は、2021年度342,411、2022年度321,368であり、「日本語学習者辞書」に比してその利用者数の大きさがうかがえる。

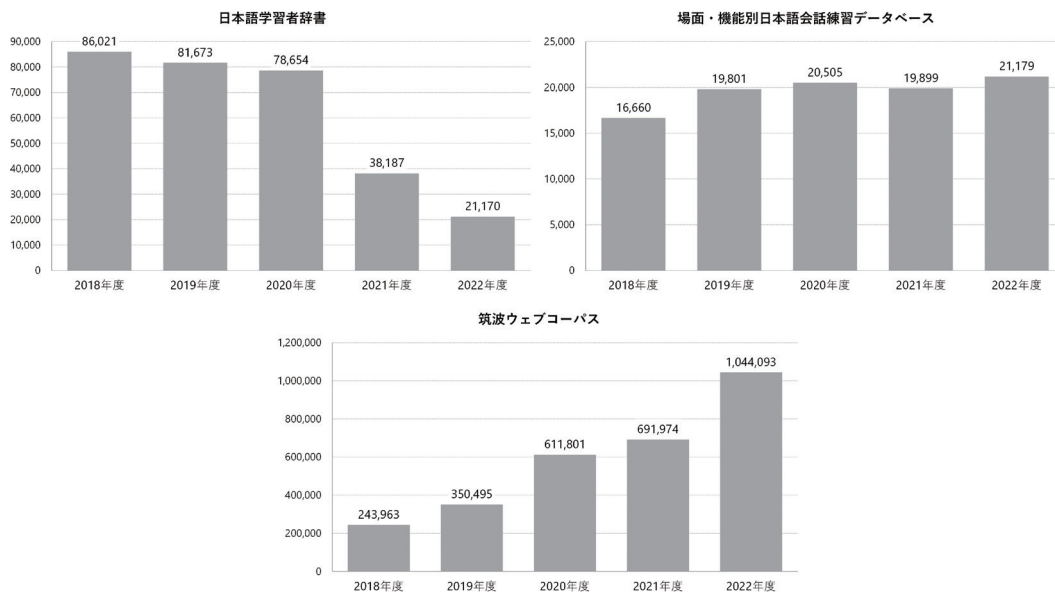


図2 Webコンテンツの利用状況(ページビュー数)

「場面・機能別日本語会話練習データベース」は、利用にあまり大きな変化が見られない。表1にある通り、本コンテンツは『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE (SFJ)』に準拠した教材であるため、この教材が使われている授業と連動した形で安定的に利用されているのではないだろうか。

「筑波ウェブコーパス」は、2022 年度において初めて年間総 PV 数が 100 万を超えた。ウェブ上の多様なテキスト素材から構築された約 11 億語という大規模コーパスは、日本語の学習や教育だけでなく研究リソースとしても極めて有用であることが数値から明らかである。

この他の Web コンテンツとして、2021 年 9 月に提供を再開した「学習項目解析システム」のアクセス数は 21 年度 22,194、22 年度 48,436 であり、2022 年 6 月に公開した「にほんごアベニュー」は、22 年度の総 PV 数が 22,702 であった。いずれも新規コンテンツのスタートとしては堅調であると思われる、2023 年度も多くの利用が期待される。「にほんごオーバーラッピング」は 2023 年度中に公開されたため、利用状況の報告は次回に譲ることとする。

### 2.3 アプリケーション

日日拠点が提供しているアプリケーション「Nihongo 123」「Basic Kanji Plus」「SuMo Japan」の利用状況として、新規ダウンロード（DL）数を図 3 に示す。なお、「SuMo Japan」は 2019 年度に提供を開始したため、その時点からの集計となっている。

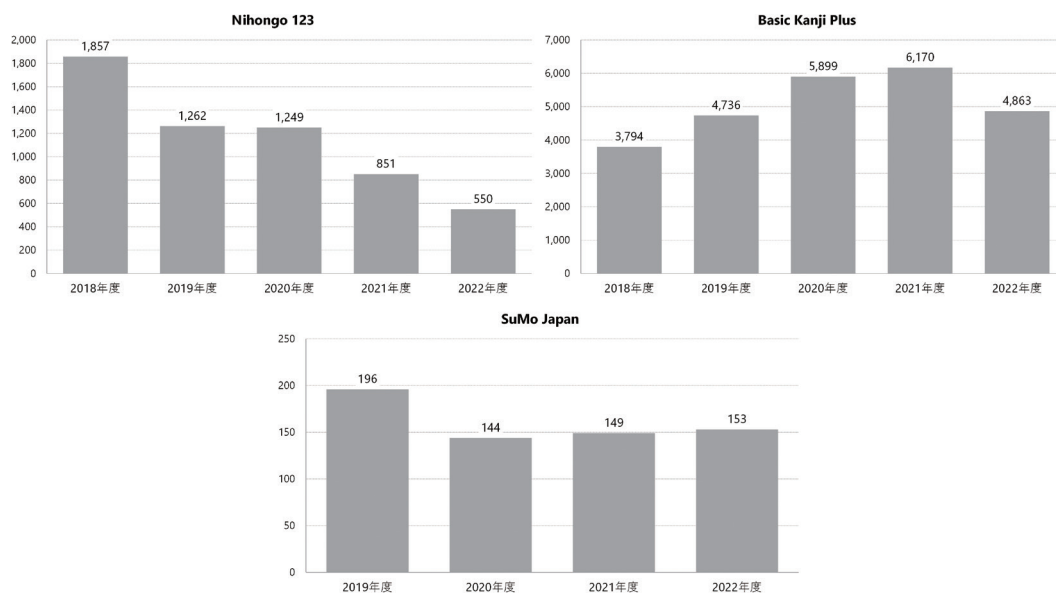


図 3 アプリケーションの利用状況（ダウンロード数）

図 3 から、「Nihongo 123」と「Basic Kanji Plus」では 2022 年度の DL 数が前年度よりも大きく落ち込んでおり、特に「Nihongo 123」は 2018 年度から減少傾向にある。

前述のとおり、「Nihongo 123」は Web ブラウザでも利用できるため、同内容のコンテンツが PC で利用可能ならば、ユーザーの多くはそちらを選択しているのかもしれない。

「Basic Kanji Plus」は、提供開始から初めての減少となった。本コンテンツは漢字教材である『BASIC/ INTERMEDIATE KANJI BOOK』に準拠したものとはいえ、近年では他に多くの漢字学習アプリが台頭している。それらを参考に、デザインや操作性を見直す必要があるのかもしれない。

一方、「SuMo Japan」は安定した DL 数である。本コンテンツは日本での生活支援に焦点をあてたものであるため、ユーザー特性が他と異なることが予想される。生活で必要とされるユーザーに一定の利用があることは、社会的な意義のあるものとして考えられるだろう。

### 3. 既存コンテンツの拡充

ここでは、「SuMo Japan」と「Nihongo 123」に新しく実装された機能、『UT 日本語教育コンテンツ』ページの作成、Japan Virtual Campus (JV-Campus) に提供されている「日本語マグネット」の完成について報告する。

#### 3.1 SuMo Japan と Nihongo123 の機能拡充

「SuMo Japan」にユーザー登録をせずコンテンツを体験することができる非ログイン機能が追加された (図 4 左図)。これにより、日本に住む外国人ユーザーが直面する悩みについて、どのようなやりとりが行なわれているのかを気軽に体験できるようになった。また、これまでの日本語・英語での提供に加え、中国語・ベトナム語・ポルトガル語・インドネシア語・ネパール語でも提供を開始し、より多様な母語のユーザーにサービスが届くようにした。



図 4 「SuMo Japan」の非ログイン機能の追加と多言語化 (左図)

「Nihongo 123」のロシア語・ウクライナ語追加 (右図)

「Nihongo 123」では、これまで文法解説や動画字幕などが英語のみであったが、新たにウクライナ語およびロシア語での説明が追加された。これは、公益財団法人日本財団からの助成を受け、ウクライナから避難したウクライナ語教師と、本学の元学生でカザフスタン出身の現役日本語教師の協力により実現したものである。

### 3.2 『UT 日本語教育コンテンツ』 ページの作成

表1に掲げている通り、日日拠点では多くの日本語教育コンテンツを展開している。従来はHPに各コンテンツの独立したWebページがあるのみで、それぞれの概要を一覧するページがなかった。そのため、ユーザーは自身が目的とするコンテンツ以外を試したり、未知のコンテンツを発見したりする機会が少なかった。

そこで、各コンテンツの特徴を簡潔に分かりやすくまとめ、それを一つのWebページ上で一覧できる『UT 日本語教育コンテンツ』を作成し本拠点のHPに掲載した(図5)。ここから各コンテンツを概観することで、これまで以上にユーザーによる活発で横断的なコンテンツの利用が期待される。



図5 『UT 日本語教育コンテンツ』



	テーマ	長さ
1.	日本語の特性	9:08
2.	日本語の数	9:06
3.	日本語の名前	6:47
4.	日本語の方言	5:56
5.	日本語のジェンダー	8:33
6.	日本語の身体性	5:55
7.	日本語と動物	6:59
8.	日本語のユーモア	3:46
9.	日本語と文字	7:08
10.	日本語の音	3:49
11.	日本語の色	7:21
12.	日本語の季節	7:44
13.	日本語の歴史	7:19
14.	日本語のリズム	8:35
15.	日本語のマナー	6:59

図6 「日本語マグネット」と15のテーマ

### 3.3 「日本語マグネット」の完成

日々拠点がオンライン国際教育プラットフォーム「Japan Virtual Campus (JV-Campus)」に提供しているアニメーション教材「日本語マグネット」の全15章が完成した。本コンテンツは日本語に関する様々なテーマについて、教科書から離れて現代の日本語社会でどのように使われているかを扱ったオンデマンド型の動画教材で、JV-Campus内のJapanese Language Education Package (日本語教育パッケージ)にて公開されている。中上級以上のレベルが想定されているものの、動画には字幕(日/英)を表示させることができる。「日本語マグネット」の画面および扱われている15のテーマと動画の長さを図6にまとめる。

## 4. 新規コンテンツの開発

ここでは、2022年秋から2023年夏の間にかけて新たに開発を手がけたコンテンツ「にほんごオーバーラッピング」「つくば語彙チェッカー(仮)」「ロジック理解コンテンツ(仮)」について報告する。

### 4.1 「にほんごオーバーラッピング」

近年では音声コミュニケーションにおける韻律の重要性に注目した様々な音声教材が存在する一方、音声を客観的に理解するには独特の専門性や技術的制約など困難が多い。そこで、日本語学習者が自律的に音声学習を進められるための一助として、日々拠点では「にほんごオーバーラッピング」を開発・公開した(波多野他2023)。

本ツールはモデル音声と同時に発話するオーバーラッピングの練習法を取り入れた音声評価ツールで、ユーザーがモデル音声を「聞いて・見て・真似る」だけで、複雑な操作を必要とせずに韻律を理解・学習することができる。

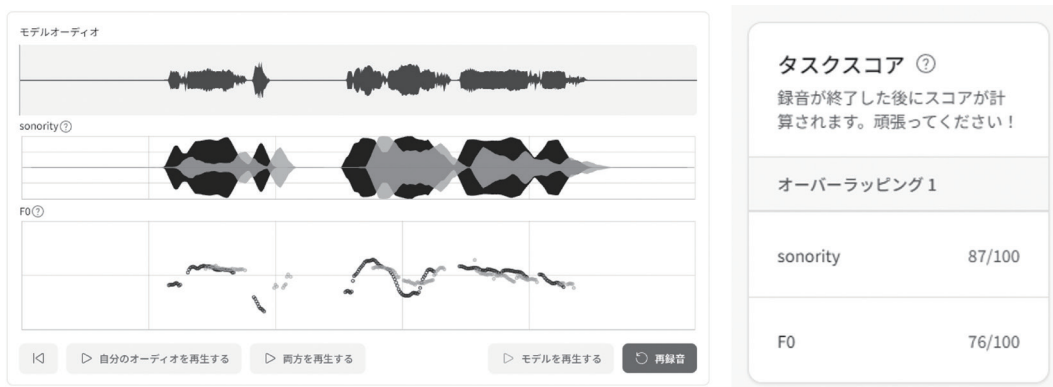


図7 「にほんごオーバーラッピング」



ユーザーはモデル音声を聴取するとともに、韻律（音声波形と基本周波数）を視覚的に捉えることで強弱や抑揚を理解する。そして、モデルの韻律に注意しながら重ね合わせるように自身の発話を録音する。録音が終わると、モデル音声の韻律と重ねて自身の韻律が表示され、その一致度のスコアが算出される。自身の韻律が手軽に（しかもモデル音声と重ね合わせて）可視化されること、音響解析に基づいた評価スコアが得られること、練習素材となるモデルはユーザーが任意に用意できるため日本語のレベルを問わないことが、本ツールの特徴である。

2023 年度に公開後も継続開発中であり、アップデートされた完成版を 2024 年に公開予定である。

#### 4.2 「つくば語彙チェッカー（仮）」

現在、日本語教育では様々なテキスト・アノテーションのツールが構築されており、それぞれが独自の開発背景を持つ。そのため、同一テキストに対する各アノテーションの結果を得るためにはそれぞれのツールにあたる必要があり、当然ながらその表示や操作性は異なっている。これら豊かな言語資源の利用機会を増やすとともにユーザーの利便性を高めるため、日日拠点では「リーディング・チュウ太」「日本語教育語彙表 Ver 1.0」「日本語文法項目用例文データベース『はごろも』 ver.3」に「EDR 電子化辞書」を加え、入力テキストの言語項目（形態素解析の結果に基づく）に対して各リソースからの情報（レベルや意味）を付与して表示する「つくば語彙チェッカー（仮）」の開発を行なっている（岩崎他 2023）。

本ツールは一度の入力で多様なアノテーション・リソースからの結果を横断的に参照でき、それらを簡便かつ統一的な操作性で提供することを目的としている。また、入力テキストに対する形態素解析機能（解析器は MeCab, ChaSen, Sudachi が利用可能）や、音声合成機能、穴埋めテスト作成機能等も利用することができる。

2023 年度中に開発に着手しており、その成果は 2024 年中に公開される予定である。

#### 4.3 「ロジック理解コンテンツ（仮）」

面接やディスカッション、研究活動において、特に質疑応答の場面で日本語学習者の産出には論理的なずれが生じやすい。しかし、日本語教育の多くの現場では論理的な考え方を身につけることに特化した授業はあまり行なわれておらず、学習者が日本語での論理的思考を鍛える機会の提供が求められている。

そこで、日日拠点では上級日本語学習者（研究生や大学院生）を対象に、質問と回答の間の論理的な結びつきに注目した練習問題やクイズをオンラインで提供する「ロジック理解コンテンツ（仮）」を開発している。上述した場面での論理性（「質問に対する論

理的な回答とは何か」「論点がずれるとはどういうことか」等)について具体的に考え、理解するためのサポートをする Web コンテンツであり、こちらも 2023 年度中に開発し、2024 年中に提供予定である。

## 5. 講演会主催および共催シンポジウム

昨年度(2022年度)、「日本語教育とICT活用を考える」と題して、ICTに関わる日本語教育関係者を講師として招き、全4回の連続講演会を行なった。2023年度においても、本稿執筆時点までに2回の講演会が開催された。本講演会は、「理念編」と「ツール編」で構成され、前者では講師のICT活用についての考えを共有するとともにフロアとの意見交換を通じた理解の深化を目的とし、後者ではコンテンツの開発や利用に関わる講師を招いてワークショップを行なうことで参加者により活発な利用を促すことをねらいとしている。

本稿執筆時点までに開催された2回について、日時・講師・題目を表2にまとめる(回数は前年度からの通算)。

第5回の講演会は参加者99名、第6回は36名(募集時に人数制限あり)であり、日本語教育の教員、研究者、大学院生など、前年度に続いて多くの参加を得ることができた。また、アンケート結果では「講演会に満足したか」「内容が面白かったか」「得られた情報は役に立つか」「周りに勧めたいと思うか」等の項目に対して、いずれも90%以上の高評価を得た。

表2 2023年度「日本語教育とICT活用を考える」

第5回	2023年6月1日(木) 14:00-16:00	理念編
	講師：今度珠美(一般社団法人メディア教育研究所)	
	題目：デジタル・シティズンシップ 善き使い手になるための市民教育	
第6回	2023年7月27日(木) 14:00-16:00	ツール編
	講師：寺嶋弘道(立命館アジア太平洋大学)	
	題目：コーパスツールの活用を考える —どのように学習者に使ってもらうか—	

自由回答では「とても啓蒙的で、新しい発見の多い講演会でした」「今回のワークショップで学んだことを授業で実践してみたいと思います」等、この講演会の開催意図を反映したコメントも散見された。本講演会は本稿執筆後も引き続き開催を予定しており、その内容および成果は次回の報告でまとめる。

また、2023年2月15日と8月3日には、CEGLOC日本語教育部門を主催として本拠点が共催で加わっているシンポジウム「未来志向の日本語教育」の第6回と第7回が開催された。第6回は15件、第7回は14件の口頭発表があり、例年と比べ発表件数も多く盛況であった。

## 6. おわりに

本報告では、筑波大学日本語・日本事情遠隔教育拠点の2022年秋から2023年夏にかけての主な活動を「コンテンツの利用状況」「既存コンテンツの拡充」「新規コンテンツの開発」「講演会主催および共催シンポジウム」に分けて報告した。

ここでの報告以外にも、日々拠点では CEGLOC の日本語教育部門と連携して様々な活動を行なっている。来年度は第三期の最終年度である。これまでの成果を振り返りながらも、引き続き日本語教育への貢献を意識し、利用者・関係者に多様な機会を提供する挑戦を行なっていきたい。

## 参考文献

- 岩崎拓也・波多野博顕・伊藤秀明（2023）「日本語教師向け Web コンテンツ『つくば語彙チェッカー』の概要」『言語資源ワークショップ 2023 予稿集』.
- 波多野博顕・伊藤秀明・陳祥・渡邊芙裕美（2023）「日本語・日本事情遠隔教育拠点報告 2022」『日本語教育論集』Vol.38, 57-66.
- 波多野博顕・井上雄介・水野宏明・伊藤秀明・小野正樹（2023）「日本語学習者の音声学習を支援する自動評価ツール」『日本語教育支援システム研究会 第 10 回国際研究集会 予稿集』217-220.

## 参考ウェブサイト

- ・日本語・日本事情遠隔教育拠点 HP  
<https://www.intersec.tsukuba.ac.jp/~kyoten/>
  - ・JV-Campus 日本語マグネット  
<https://www.jv-campus.org/contents/japanese-magnet/>
- ※ いずれも 2023 年 10 月 1 日閲覧

